

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成21年10月27日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 清水 義彦	群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻教授
宮村 忠	関東学院大学工学部教授
伊藤 和明	NPO法人防災情報機構会長
北原 糸子	神奈川大学非文字資料研究センター研究員、 立命館大学特別招聘教授
白井 勝二	財団法人渡瀬遊水地アクリメーション振興財団専務理事
須見 徹太郎	東京大学大学院情報学環総合防災情報センター特任教授

の各委員及び

橋本 直子	葛飾区郷土と天文の博物館学芸員
井上 公夫	財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長

が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに (宮村忠・清水義彦)

## 第1章 カスリーン台風と利根川流域

### 第1節 利根川流域と土砂の流出 (白井勝二)

コラム1 カスリーン台風水害の時間経過 (清水義彦)

### 第2節 利根川における昭和22(1947)年9月カスリーン台風 (白井勝二)

### 第3節 利根川上流域の山地災害 (白井勝二)

コラム2 赤城山の土石流と利根川 (宮村忠)

コラム3 利根川水系の土砂の流出 (白井勝二)

### 第4節 利根川河道整備と堤防決壊 (白井勝二)

コラム4 基準点の変化 (白井勝二)

コラム5 電話の普及状況 (白井勝二)

コラム6 建設省設置 (白井勝二)

コラム7 カミソリ堤 (白井勝二)

コラム8 幸手の水害碑 (白井勝二)

コラム9 文献によるカスリーン台風の決壊等の記述内容 (白井勝二)

### 第5節 水害と水塚 (白井勝二)

コラム10 洪水常襲地域の生活の知恵 (白井勝二)

### 第6節 カスリーン台風災害を受けての改善 (白井勝二)

### 第7節 改修計画の見直し (白井勝二)

## 第2章 カスリーン台風と渡良瀬川流域

### 第1節 渡良瀬川流域と土砂の流出 (白井勝二)

### 第2節 山地崩壊による土砂流出 (白井勝二)

### 第3節 渡良瀬川の砂防 (白井勝二)

コラム11 見返資金 (白井勝二)

第4節	渡良瀬川の改修と被災（白井勝二）
コラム12	桐生南部河川愛護会（白井勝二）
第5節	渡良瀬川の改修計画の見直し（白井勝二）
第3章	扇状地急流河川の氾濫による被災過程について
第1節	はじめに（清水義彦）
第2節	桐生市における河川破堤と被災過程（清水義彦）
第3節	渡良瀬川上流域で発生した土砂生産との関連について（清水義彦）
第4節	扇状地での氾濫流の挙動について（清水義彦）
第5節	渡良瀬川の河川改修とカスリーン台風災害（清水義彦）
第4章	山間部の土砂災害、特に渡良瀬川流域について
第1節	土砂災害の背景（井上公夫）
第2節	赤城火山の形成史（井上公夫）
第3節	渡良瀬川流域の活断層と歴史（被害）地震（井上公夫）
第4節	渡良瀬川の河岸段丘と天然ダムの痕跡地形（井上公夫）
第5節	渡良瀬川流域の土砂災害の事例調査（井上公夫）
コラム13	沼尾川の土石流（山津波）災害について（清水義彦）
第5章	利根川氾濫流の流下と中川流域
第1節	はじめに（須見徹太郎）
第2節	カスリーン台風時の中川流域の状況（須見徹太郎）
コラム14	葛西用水の歴史（須見徹太郎）
第3節	利根川氾濫流の流れ（須見徹太郎）
コラム15	小合溜と都県境（須見徹太郎）
第4節	荒川の氾濫（須見徹太郎）
第5節	利根川氾濫による被災状況（須見徹太郎）
コラム16	戦後水害と水防法の制定（須見徹太郎）
第6章	カスリーン台風災害とGHQの対応
第1節	はじめに（北原糸子）
第2節	カスリーン台風災害とGHQの対応（北原糸子）
第3節	埼玉軍政部の対応（北原糸子）
第4節	日本政府の対応（北原糸子）
コラム17	内務省解体についての閣議決定書（北原糸子）
コラム18	利根川をめぐる江戸時代の水害絵図（橋本直子）
第7章	カスリーン台風災害から学ぶ教訓（全委員）

清水委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）山崎 速人	内閣府災害予防担当
相澤 竜哉	内閣府災害予防担当

平成22年1月  
内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。